



Journal of Hospitality and Tourism

[Hospitality]

サービス・ビジネスとしての歌劇場経営……………佐藤敦子 (1)

現代社会における人生の終焉へ向けた活動に関する研究
～「終活」の理論整理と定義に関する考察～……………内苑孝美 (13)

[Tourism]

人生の終焉活動（終活）における「旅」の役割に関する研究
～シニアが求める豊かさとしての「旅」～……………神末武彦 (23)

幕末三舟の一人，高橋泥舟研究覚書(3)
—明治初期静岡藩田中勤番組（旧幕臣）の名簿「支配勤番組姓名」と
その内職に関する史料について—
……………岩下哲典・藤田英昭・徳江靖子・
大場勇人・大場雅子 (32)

[Education]

待遇名詞句表現の指示性と形式特性について……………中井延美 (66)

英語 5 文型の再考と文型指導……………小山田幸永 (74)

小学校英語における音声面の誤用分析
—小学校英語実践報告—……………野上文子 (80)

現代社会における人生の終焉へ向けた活動に関する研究

～「終活」の理論整理と定義に関する考察～

内 苑 孝 美

A study on the definition of “Shukatsu”, the preparation and enriching activities at the final chapter of life

TAKAMI UCHIZONO

The main focus of this research is to characterize the definition of “Shukatsu”. The word “Shukatsu” began to be used from the year 2009, when a weekly magazine first used the word in an article. The evolution of Japanese Society pushed this word to become popular among people. Japan is now the leading country for life expectancy and people have surplus time to think about their latter days compared to earlier generations. The concept of “Shukatsu” is to think and enrich people’s lives and to prepare for their coming death which everyone will experience. But the reality is that, for the most part, “Shukatsu” has been focused on death preparation and not on the enrichment of life. This paper will conclude that both the preparation and enriching processes are needed in the activities of “Shukatsu”.

1. はじめに

本稿は日本社会に登場しはじめた、人生の終焉へ向けた活動を目的とした、“終活”に焦点をあて、その定義について調査、研究したものである。

現在、我が国の平均寿命（0歳時点での平均余命）は、男性79.74歳、女性86.41歳であり1947年の男性50.06歳、女性53.96歳から大きく伸びており世界でもトップクラスである^①。寿命延伸の要因については複数の事象が考えられるが、その中でも日常生活の質的向上、特に食生活や医療施設・技術の向上が上位にあげられる。延伸した平均31.69年の時間が仕事に取組む在職期間や退職後の20年近くを生み出し、人生設計や生活に大きな変化を齎し、その時間をどう過ごすかということに大きな関心が寄せられることとなる。1947年当時の寿命で生活設計を考えた場合には、退職後、終焉までの時間も少なく、経済的に家族を支えるために日々の生活を精一杯過ごすことがせい

ぜいであり、現在のように時間的な余裕を持って終焉活動を考えるまでには至らなかったと推察される。しかし、寿命が延伸した現代社会においては、じっくりと自分に向き合う時間を多く持てるようになり、後半の人生設計をより充実した豊かなものにするために工夫ができる時間が十分に持てる。

このような社会状況において、2009年より週刊誌^②の連載に、人生の終焉へ向けた活動を示す“終活”というキーワードが初めて登場した。その後“終活”を世の中に広める活動が活発になり、専門のカウンセラーを育成する、終活カウンセラー協会^③を始めとする各種組織が立ち上がり、メディアでも多く露出することになり注目される。2013年の調査では、“終活”という言葉の認知度も2012年のデータよりも26.3%増の73.1%^④へと

② 2009年8月から「週刊朝日」に連作された。2010年には新語・流行語大賞にもノミネートされた。

③ 終焉活動に関する事柄の知識を得るための講座を開催しており、終活カウンセラーを育成している一般社団法人。2011年設立。

④ ライフメディアリサーチ2013年3月調査より

① 厚生労働省『平成24年度簡易生命表の概況』より

次ページ以降をご覧になりたい方は終活カウンセラー協会までご連絡ください

03-6426-8019